

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
			2・東書	第1・2学年 地理的分野	地理・701
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 地理的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域構成」において、世界各国の人口、面積、国境線などから地域構成を大観したり、信仰する宗教との関係などの国旗の由来から世界の国や地域について関心を高めたりする活動 ・「世界各地の人々の生活と環境」において、6つの事例地域と東京の雨温図の違いに着目して人々の生活の様子を考察したり、異なる自然環境や宗教とのかかわりから生活や環境の多様性を理解したりする活動 ・「世界の諸地域」において、アジア州におけるイスラム教徒の生活・文化やオセアニア州のツバルにおける環境問題などから州ごとの地域的特色を大まかにとらえたり、アフリカ州では、「アフリカが発展していく上での課題」という主題を設けて地理的特色を理解したりする活動 ・「地域調査の手法」において、高知県高知市について、自然環境・防災、人口、産業や土地利用の変化、交通の発達や他地域との結びつきなどから、適切な主題を設けて追究したり、調査を行う際の視点や方法を理解したりする活動 ・「日本の地域的特色と地域区分」において、地図を活用して、地震の震源や火山が連なる地域や地域によって異なる気候の分布や地域などをとらえたり、自然災害と防災・減災への取組について、地図や写真等から調べて日本の自然環境に関する特色等を理解したりする活動 ・「日本の諸地域」において、日本を7つの地方に区分して、自然環境、人口、都市・村落、産業、交通・通信、生活・文化からそれぞれの地域的特色をとらえたり、「九州地方における自然環境の中での暮らし」という主題を設けて地域の課題を理解したりする活動 ・「地域の在り方」において、宮崎市における少子高齢化について、身近な地域の将来像を話し合ったり、他者を尊重し、協力する態度や地域社会の形成に参画する態度を身に付けたりする活動 <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習については、「日本の位置」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、参加型学習である「みんなでチャレンジ」を設けたり、多様な意見に触れたりするなど、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の構成・排列、分量等		<p>○ 内容の構成・排列については、「世界各地の人々の生活と環境」において、写真や雨温図などの資料を読み取る学習の後に、「世界の諸地域」において、複数の資料の比較や関連付けを通じて、特色を捉える学習を設定するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「世界と日本の地域構成」は27ページ、「世界の様々な地域」は107ページ、「日本の様々な地域」は142ページ、その他は19ページであり、総ページ数は295ページで、前回からの増減はない。</p>			
使用上の配慮等		<p>○ 「日本の諸地域」において、北海道における自然の特色を生かした産業を取り上げたり、現在に受け継がれるアイヌ民族の文化を紹介したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 各単元の導入部において、単元全体を貫く「探究課題」を設定する活動や、探究課題の解決を補助する問いを軸に構造化された課題解決的な学習活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 見開きで1単位時間の構成を示したり、全ての生徒が学習しやすいよう、教科書全体を通してユニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>			

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、「北海道地方」の学習において、旭川市の雨温図や旭川駅前のロードヒーティングなどが取り扱われている。北方領土については、「貴重な自然が残る北方領土」や「北海道地方」などの学習において、取り扱われている。 ○ ICTの活用については、「Dマーク」(QRコード)が掲載されており、広島市の中心部の様子の動画や、国の主な機関などへのリンク、時差の調べ方の練習問題などを学習に活用できるようにするとともに、「地域調査の方法」において、デジタル地図の使い方を説明したり、AR技術を使ったアプリケーションによる情報発信の方法を紹介したりするなどの工夫がなされている。 ○ 小中連携の指導については、各単元の導入部において、「小学校の社会科でならったことば」を掲載し、小学校の学習内容を用語や写真で振り返る活動を位置付け、中学校の地理の学習に対する興味・関心を高められるよう配慮がなされている。
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、日本の様々な交通網が担う役割について話し合うなど対話的な活動を行う「みんなでチャレンジ」のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。 ○ 複数の資料から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりする力を育むことができるよう、降水量と人口密度を表す2つの地図を比較する活動などを位置付けた特設ページ「資料から発見」を設定するとともに、統計資料の使い方などを説明する「スキル・アップ」のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各見開きに一単位時間の学習内容の整理とまとめを行う「チェック」、「トライ」のコーナーを設定するとともに、章末に学習した用語を用いて単元の課題解決を行う「基礎・基本のまとめ」を設定するなどの工夫がなされている。
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出		第1・2学年 地理的分野	地理・702
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 地理的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域構成」において、身近な飲み物の原料の生産状況などから地域構成を大観したり、伝統・文化の意義とその継承などから世界の国や地域について関心を高めたりする活動 ・「世界各地の人々の生活と環境」において、6つの事例地域の自然・社会条件と暮らしとのかかわりに着目して人々の生活の様子を考察したり、世界の言語・民族・宗教と社会とのかかわりから生活や環境の多様性を理解したりする活動 ・「世界の諸地域」において、アジア州における経済発展やヨーロッパ州における統合とその課題などから州ごとの地域的特色を大まかにとらえたり、南アメリカ州では、「なぜ自然破壊や都市の人口増加が進んだのだろうか」という主題を設けて地理的特色を理解したりする活動 ・「地域調査の手法」において、愛知県名古屋市の川と地域、住宅の開発、農業や工業などから、適切な主題を設けて追究したり、調査を行う際の視点や方法を理解したりする活動 ・「日本の地域的特色と地域区分」において、地図を活用して、地形の特色や季節風の影響を受けた多様な気候の分布や地域などをとらえたり、地形、自然災害と防災、開発や環境保全について、地図や写真等から調べて日本の自然環境に関する特色等を理解したりする活動 ・「日本の諸地域」において、日本を7つの地方に区分して、自然環境、人口、歴史、産業、交通・通信、伝統文化からそれぞれの地域的特色をとらえたり、「中国・四国地方における人口集中や人口減少」という主題を設けて地域の課題を理解したりする活動 ・「地域の在り方」において、多摩ニュータウンにおける高齢化問題について、地域に見られる課題を話し合ったり、課題解決に向けて考え、地域に見られる課題を解決していこうとする態度を身に付けたりする活動 <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習については、「防災教育」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、興味や関心を広げるコラム「地理の窓」を設けたり、個人やグループで学びを深めたりするなど、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の構成・排列、分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、「世界のさまざまな地域」において、世界各地の生活から興味・関心を高める学習の後に、「日本のさまざまな地域」において、自分なりに考えてテーマを設定し、仮説を立て、意見を交換する学習を設定するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「世界と日本の地域構成」は19ページ、「世界の様々な地域」は101ページ、「日本の様々な地域」は149ページ、その他は26ページであり、総ページ数は295ページで、前回より約6%増となっている。</p>				
使用上の配慮等	<p>○ 「日本の諸地域」において、北海道における豊かな自然と観光を取り上げたり、持続可能な社会づくりの視点からアイヌ民族の文化を紹介したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 章や節などの末尾において、「学習のまとめと表現」のページを設け、主な地名や言葉を確認する活動や、設定されたテーマについて自分の言葉で説明する学習活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 1時間の授業を見開き2ページで構成したり、全ての生徒が学習しやすいよう、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字などを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>				

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、「北海道地方」の学習において、旭川市の雨温図や二重になっている住宅の玄関、知里幸恵の「アイヌ神謡集」などが取り扱われている。北方領土については、「世界と日本の地域構成」や「北海道地方」などの学習において取り扱われている。 ○ ICTの活用については、「まなびリンク」(QRコード)が掲載されており、国土地理院などへのリンク集を学習に活用できるようにするとともに、「地域のあり方」において、学校のウェブサイトを活用して調査したことを発信する方法を紹介するなどの工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、「地理の学習を始めるにあたって」において、小学校社会科の学習を振り返る活動や、「地理にアプローチ」において、小学校で学習した地図帳の使い方などを振り返る活動を位置付け、中学校の地理の学習に対する興味・関心を高められるよう配慮がなされている。
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、特設ページ「地域から世界を考えよう」において、南アフリカ州における都市の人口増加で生じる問題の解決策などを話し合ったり、「現代日本の課題を考えよう」において、林業を活性化させる方法などについて話し合ったりする活動を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 複数の資料から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりする力を育むことができるよう、気温と降水量のグラフの読み取り方などを説明する「地理の技」のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各見開きに一単位時間の学習内容の整理とまとめを行う「確認」、「表現」のコーナーを設定するとともに、章末の「学習のまとめと表現」において、学習した用語を用いて各地域の特色などを説明する問題「表現しよう」を設定するなど工夫がなされている。
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		46・帝国	第1・2学年 地理的分野	地理・703	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 地理的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域構成」において、世界各国の文化、人口、面積などから地域構成を大観したり、国境線や国名の由来、国旗のデザインに取り入れられた自然、歴史や宗教などから世界の国や地域について関心を高めたりする活動 ・「世界各地の人々の生活と環境」において、気候帯の特徴に着目して人々の生活の様子を考察したり、「場所」や「人間と自然の相互依存関係」とのかかわりから生活や環境の多様性を理解したりする活動 ・「世界の諸地域」において、アジア州における自然環境やヨーロッパ州における文化の共通性と多様性から州ごとの地域的特色を大まかにとらえたり、北アメリカ州では、「アメリカ合衆国の工業は、どのように変化しながら世界をリードしたのか」という主題を設けて地理的特色を理解したりする活動 ・「地域調査の手法」において、東京都練馬区について、自然環境、人口や都市・村落、産業、交通や通信、環境保全、生活・文化などから、適切な主題を設けて追究したり、調査を行う際の視点や方法を理解したりする活動 ・「日本の地域的特色と地域区分」において、地図を活用して、日本の主な山地・山脈や日本各地の気候の分布や地域などをとらえたり、自然災害に対する備えへの取組について、地図や写真等から調べて日本の自然環境に関する特色等を理解したりする活動 ・「日本の諸地域」において、日本を7つの地方に区分して、自然環境、交通や通信、環境保全、産業、人口や都市・村落、生活・文化からそれぞれの地域的特色をとらえたり、「近畿地方における環境問題への取組」という主題を設けて地域の課題を理解したりする活動 ・「地域の在り方」において、京都市のバスの混雑について、自分の住む地域の在り方と世界と日本の学習との関連について話し合ったり、地域の課題の解決に向けて考え、主体的に社会の形成に参画する態度を身に付けたりする活動 <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習については、「地域の在り方」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、社会的な課題の分析と、その解決に向けた構想に取り組む活動を設けたり、生徒自身が学習の振り返りを行ったりするなど、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の構成・排列、分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、「世界のさまざまな地域」において、地域で見られる地球的課題の影響を考察する学習の後に、「日本のさまざまな地域」において、地域的特色を構成する各事象と地球的課題の相互関係を考察する学習を設定するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「世界と日本の地域構成」は 24 ページ、「世界の様々な地域」は 104 ページ、「日本の様々な地域」は 155 ページ、その他は 17 ページであり、総ページ数は 300 ページで、前回より約 7% 増となっている。</p>				
使用上の配慮等	<p>○ 「日本の諸地域」において、雪と共にある北海道の人々の生活を取り上げたり、自然と共に生きるアイヌの人々の歴史や文化を紹介したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 章・節・各本文において、冒頭に設けた単元を貫く問いから学習の見通しをもつ活動や、末尾に言語活動を備えた学習の振り返りの活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 地域の特徴が見える写真資料を掲載したり、全ての生徒が学習しやすいよう、資料は識別しやすい色とし、文字はユニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>				

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、「北海道地方」の学習において、旭川市の年間降雪日数の平均や旭山動物園などが取り扱われている。北方領土については、「日本の領域とその特色」や「北海道地方」などの学習において取り扱われている。 ○ ICTの活用については、二次元コード（QRコード）が掲載されており、地球儀での距離と方位の調べ方などの動画やインターネット上の地球儀、章末問題の解答などを学習に活用できるようにするとともに、「身近な地域の調査」において、デジタル地図の使い方を説明したり、「地域のあり方」においてプレゼンテーションソフトを使った発表の仕方を紹介したりするなどの工夫がなされている。 ○ 小中連携の指導については、学習内容を振り返ることができるよう、各本文ページの下欄において、当該ページで学習する内容に関連する小学校の既習事項を掲載し、中学校の地理の学習に対する興味・関心を高められるよう配慮がなされている。
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、自然環境に着目した産業を発展させる取組について話し合うなど対話的な活動を行う「持続可能な社会に向けて考えよう」を設定するなどの工夫がなされている。 ○ 複数の資料から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりする力を育むことができるよう、新旧の地形図の比較などを行わせる「技能をみがく」のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各見開きに一単位時間の学習内容の整理とまとめを行う「確認しよう」「説明しよう」のコーナーを設定するとともに、章や節末に、学習した用語を用いて「章の問い」に対する説明を行う「章（節）の学習を振り返ろう」を設定するなどの工夫がなされている。
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		116・日文	第1・2学年 地理的分野	地理・704	中学社会 地理的分野
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 地理的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域構成」において、世界各国の人口、面積などから地域構成を大観したり、国境や人口・面積、国名・国旗の由来などから世界の国や地域について関心を高めたりする活動 ・「世界各地の人々の生活と環境」において、人々の生活とその場所の地形や気候、社会の様子に着目して人々の生活の様子を考察したり、衣食住の特色や、言語・宗教とのかかわりから生活や環境の多様性を理解したりする活動 ・「世界の諸地域」において、アジア州における人口や経済発展やアフリカ州における自立のための開発と国際協力などから州ごとの地域的特色を大まかにとらえたり、オセアニア州では、「多文化が共生する社会」という主題を設けて地理的特色を理解したりする活動 ・「地域調査の手法」において、京都市伏見区について、自然環境、人口や都市・村落、産業、交通・通信などから、適切な主題を設けて追究したり、調査を行う際の視点や方法を理解したりする活動 ・「日本の地域的特色と地域区分」において、地図を活用して、地形の特色や地域によって気温や降水量が異なる気候の分布や地域などをとらえたり、地形、自然災害と防災、開発や環境保全について、地図や写真等から調べて日本の自然環境に関する特色等を理解したりする活動 ・「日本の諸地域」において、日本を7つの地方に区分して、自然環境、人口や都市・村落、歴史的背景、産業、交通・通信、持続可能な社会づくりからそれぞれの地域的特色をとらえたり、「中部地方における産業」という主題を設けて地域の課題を理解したりする活動 ・「地域の在り方」において、京都市の町づくりについて、地域の課題を話し合ったり、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を身に付けたりする活動 <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習については、「世界の諸地域」において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、節末で地球的課題を設けたり、「チャレンジ地理」等で地球的課題を解決したりするなど、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の構成・排列、分量等		<p>○ 内容の構成・排列については、「世界の諸地域」において、人類全体で取り組まなければならない地球的課題について考察する学習の後に、「日本の諸地域」において、持続可能な社会を実現する上で取り組まなければならない地域の課題を設定するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「世界と日本の地域構成」は22ページ、「世界の様々な地域」は95ページ、「日本の様々な地域」は156ページ、その他は14ページであり、総ページ数は287ページで、前回より約2%増となっている。</p>			
使用上の配慮等		<p>○ 「日本の諸地域」において、北海道地方の自然環境と人々のかかわりを取り上げたり、日本の先住民族であるアイヌ民族の歴史や民族共生象徴空間を紹介したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 単元の終末部において、具体的な課題を自ら調べたり、議論したりする活動や、学習を振り返って知識の定着を図る活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 1時間の授業を見開き2ページで構成したり、全ての生徒が学習しやすいよう、教科書全体を通してユニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>			

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域素材については、「北海道地方」の学習において、旭川市の雨温図や冬に対応した住宅、旭山動物園などが取り扱われている。北方領土については、「世界と日本の地域構成」や「北海道地方」などの学習において取り扱われている。 ○ ICTの活用については、「デジタルマーク」(QRコード)が掲載されており、アメリカ合衆国のかんがい農業の動画や、国土地理院などのホームページへのリンク、教科書に掲載しているクイズの解答などを学習で活用できるようにするとともに、「地域調査の手法」において、デジタル地図の使い方を説明したり、プレゼンテーションソフトを使った発表方法を紹介したりするなどの工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、各章のはじめや見開きの下欄に、小学校で学習した内容を示し、学習内容を振り返ることができるようにすることで、中学校の地理の学習に対する興味・関心を高められるよう配慮がなされている。
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、自然環境に配慮した観光客の誘致について話し合うなど対話的な活動を行う「アクティビティ」のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。 ○ 複数の資料から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりする力を育むことができるよう、地図や写真などの活用方法を説明する「スキルUP」のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。 ○ 既習の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各見開きに一単位時間の学習内容の整理とまとめを行う「確認」のコーナーを設定するとともに、章末に学習した用語等について確認を行う「学習のまとめ」を設定するなどの工夫がなされている。
<p>その他</p>	